

令和5年度 調布市立調布中学校 学校評価報告書（学校長 梶山 剛史）

学校の教育目標

◎自ら学び深く考えよう ○身体を鍛えたくましく生きよう ○礼儀正しく思いやりの心をもとう ○勤労を重んじ進んで奉仕しよう

目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像

徳・知・体の調和のとれた成長と、社会の変化に主体的に対応できる力を身に付けることを目指して

↓

「皆の笑顔が輝く、活気と潤いのある学校」←「かかわりを大切に」

メッセージ 「生徒のびのび、保護者安心、地域自慢、教職員いきいき」

↑

【教育目標を達成するための視点と具体的方策】 ◎今年度の重点（一部抜粋）

「分かる・できる喜びが味わえる学校」 ◎主体的問題（発見）解決能力の育成…主体的・対話的で深い学び ◎特別支援教育の充実

「笑顔の挨拶と思いやりあふれる学校」 ◎人とのかかわりから自分も相手も大切に（人権を尊重、いじめを許さない） ◎環境による教育

「様々な人とのかかわりを深める学校」 ◎役割意識と一人一人の活躍の場所（居場所、絆づくり） ◎生徒会活動等の充実（社会性育成）

「自らの役割を意識しチームで動く学校」 ◎「(全職員) みんなで(全生徒) みんなを」育てていく ◎保護者の信頼に応える学年(学級) 経営

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>

	1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)			
	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価
	① 「命を大切に」取組を行う。	A	① 全教科でタブレット端末等を活用した授業を実施し、生徒の学ぶ意欲を高める。	A	① 体育の授業を柱に、運動についての意欲を高める。また、昼休みの校庭利用を増やす取組を行う。	B
	② 毎月いじめアンケートを行う。	A	② 全教科で校内研究を柱に、深い学びを実現するための授業改善を継続する。また、生徒の「リーダーシップ」「論理的思考力」「コミュニケーション力」等を伸ばす取組を実施する。	A	② 食物アレルギー研修を計画的に行い、職員の意識を高める。学校全体で、日々の確認をルーティン化し徹底して行う。	A
	(2) 成果(数値目標に対して)	評価	(2) 成果(数値目標に対して)	評価	(2) 成果(数値目標に対して)	評価
自己評価	① 生徒アンケートで「いじめ防止の取組」について、肯定的評価は1年：80.4%、2年：81.7%、3年：86.8%であった。2、3年生については昨年度比1～3ポイントの上昇が見られた。引き続き、丁寧な取り組みが必要である。	B	① 生徒アンケートで「主体的に学習に取り組んでいる」の肯定的評価は1年：83.7%、2年：80.1%、3年：87.3%であった。2、3年生については昨年度比5～8ポイント上昇しており、授業改善の一定の成果が表れたものと考えられる。	A	① 生徒アンケートで「体力の向上に努めている」の肯定的評価は1年：77.8%、2年77.5%、3年80.4%であった。2、3年生については昨年度比を4～6ポイント下降しており、引き続き昼休みの外遊び励行や委員会活動の充実を図り、生徒の体力向上と豊かな心の育成に努める。	B
	② 生徒アンケートで「命の大切さを学ぶ取組」について、肯定的評価は1年：91.5%、2年：93.7%、3年：95.9%であった。引き続き、「生徒の数が命の数」を念頭に、命の大切さを伝えていく。	A	② ショート・ディスカッションを6月より2回行うことができた。話し合うテーマも生徒から募集し、対話の基本型を学ぶことで、教科の授業でより活発な対話や意見交換を引き出すことができた。来年度は教科授業への活用だけでなく、委員会活動の活発化を狙ってテーマを絞って行っていく。	B	② ヒヤリハット事例を含め、食物アレルギー事故を未然に防ぐことができた。来年度は給食が再スタートするため、改めて教職員の意識を高め、生徒への指導・啓発も行っていく。	A
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 他の回答も同様であるが、学年が上がるにつれて生徒の肯定的意見が増えていて着実に成果が出ている。 		<ul style="list-style-type: none"> 話し合うことが、特に3年生を中心に身に付いていると感じる。 自分の意見をなかなか出せない子、発言がうまい子に負い目や引け目を感じてしまう子もいるのではないかと少し気になる。そのあたりは課題である。 		<ul style="list-style-type: none"> 意識が高まっていることもあるが、食物アレルギーをもつ子は年々増えているように感じる。 感染症流行期間に集団での遊びや運動を制限されて成長してきた子たちなので、体育のみならず集団で身体を使う機会を設けてほしい。 	

学校の特徴を生かした領域 <短期的な経営目標>						
	4 特別支援教育	5 保護者・地域との連携	6 地域学校協働本部との連携			
自己評価	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価
	① 特別支援教育部を柱に、特別支援教育の充実を図る。また、魅力ある学校づくりの取組を継続して行う。	B	① 健全育成会議や地域行事に可能な範囲で参加し、互いの顔が見える交流・関係づくりを行う。	A	① 生徒の幅広い検定機会の創出に向けて、連携を図る。生徒の多様な学びに充実に向けても、ボランティア募集等を進めていく。	A
	② ステップルームや取り出し授業を活用し、生徒一人一人に合った指導を行う。	A	② ホームページ、学校・学年だより等、広報活動の充実を図る。	A	② コミュニティ・スクール次年度実施に当たり、情報交換と準備を進めていく。	B
	(2) 成果（数値目標に対して）	評価	(2) 成果（数値目標に対して）	評価	(2) 成果（数値目標に対して）	評価
① 特別支援教育の研修を2学期に行うことができた。また、魅力ある学校づくりアンケートの「学校が楽しい」と回答した生徒は1年：46%、2年：54%、3年：46%であった。引き続き、「学校が楽しい」と自信をもって言える学校づくりを教職員・生徒とともに考えていく。	B	① 吹奏楽部、和太鼓部、そして日本文化局が地域行事等に参加し、広く調布中の教育活動を知らせることができた。また、陸上競技部が調布市駅伝大会に参加し、男女ともに入賞することができた。引き続き、可能な範囲で地域の行事・大会にも教職員の協力を得て参加していく。	A	① 1月より英語検定業務、漢字検定業務、そして数学検定業務について、民間委託を図り、生徒の多様な学びや機会を保障しつつ、教員の働き方改革にも着手でき、持続可能な体制を構築できた。次年度から本格的に始めていく。	A	
② 不登校を理由とする30日以上長期欠席生徒は35名（12月時点）と前年より減少している。ただ、それ以外での長期欠席生徒も13名いるため、引き続き家庭や関係機関と連携して一人一人の状況に応じた丁寧な対応を行っていく必要がある。	B	② 各家庭にメールを配信する際、HPアドレスを記載したことで、アクセスも増え、調布中の今をタイムリーに伝えることができた。また、保護者アンケートの結果も全学年で90%以上の肯定的回答であった。	A	② 学校関係者評価委員会等を活用して、年間3回以上情報交換ができた。コミュニティ・スクールの人選についても助言いただき、次年度の準備も進めることができていく。	B	
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 不登校といっても、子供たちの抱える問題は一人一人違うと実感している。 外国にルーツのある子どもの日本語支援ボランティアを行っているが、一見コミュニケーションに問題がないように見える子が、実はあまり日本語を理解できていなかったということがよくある。その子の視点まで目線の落として向き合う姿勢が求められる。 		<ul style="list-style-type: none"> 保護者が自分の子供たちのことだけでなく、学校がどのように運営され先生方はどう生徒に接して言うのか等について、関心が薄くなっているように感じる。 		<ul style="list-style-type: none"> 地域が学校で直接生徒の様子を見る機会があると、子供たちが授業をどのように受け止めているか、先生方が子供たちとどのように接しているか等を知ることとなり、学校への理解が深まる。 上記を含めて学習支援等、そのような機会が増えるとよい。 	

人材育成・組織運営	
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援教育部が中心となり、生徒一人一人に合った誰にも優しい指導を行い、不登校対策・特別支援教育の充実にあたることができた。 ○分掌・学年内での役割・仕事分担の明確化をさらに進める必要がある。引き続き、教職員が得意分野で力を発揮でき、力を伸ばせるようにする。 ○主幹教諭及び教務主任からなる経営会議を毎朝行い、学校の円滑な組織運営に役立てることができた。次年度も継続して取り組む。 ○主任教諭に、学年・学級・分掌主任・行事委員長・若手育成担当等を任せ、経営参画意識を高めることができた。
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方が、なるべく生徒に向き合う時間を多くとることができるような運営を望む。（ステップルームにかかわっているとき、ちょっとしたやり取りに生徒たちが安心して頼っている様子をいつも見ている。先生の力は大きいと実感している。）

中期的な経営目標の達成状況
1 人権尊重教育の推進と豊かな心の醸成（徳）…順調である。引き続き、本校の伝統である「思いやりキャンペーン」等生かして生徒主体の取組からより一層深化を図る。 2 確かな学力定着に向けた教育の推進（知）…順調である。授業改善の成果が徐々に表れてきており、生徒アンケートの結果からも主体的に取り組む生徒が増えてきている。引き続き、生徒が主語の授業改善を進め、学力向上を図る。 3 心身の健康を保持続けていく態度の育成（体）…順調である。引き続き「道徳科」「保健体育科」を柱に計画的に目指す力の育成を図る。 4 特別支援教育の充実…順調である。引き続き、特別支援教育部を柱として、意図的・計画的な取組を進めていく。 5 保護者・地域と連携した信頼される学校の推進…順調である。引き続き、学校からの情報発信と保護者・地域への丁寧な対応を全職員が自分事として心がけていく。 6 地域学校協働本部と連携した教育活動の充実…順調である。ステップルームの利用者が増加するなか、様々なニーズを抱える生徒も増えているため、一人一人に寄り添った居場所となるようステップルームについてもさらなる充実を地域学校協働本部と連携して図っていく。
次年度の重点課題
<ul style="list-style-type: none"> ・「生徒の数はいのちの数」をキーワードに教職員の気持ちを一つにし、生徒に対してはあらゆる教育活動を通して、自分のいのちも他者のいのちも大切にすることを育てる。 ・「学校が楽しい」と自信をもって回答できる生徒を増やすため、引き続き、校内研究を柱に生徒一人一人の「分かったい」気持ちを大切に授業改善を行う。 ・コミュニティ・スクールの機能を生かし、地域とともにある開かれた学校づくり、すなわち地域の自慢の学校であるべく、情報発信と情報交換を引き続き積極的に行う。・新規の不登校出現率を減らしていく。

